

施策カルテ

1 施策の位置付け

担当課 保健福祉総務課

総合計画 政策の柱	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	都市の福祉力を高める	取組の 基本方向	「都市の福祉力を高める」ため、福祉教育等により地域の人材育成を図るための「市民の福祉活動への参画促進」、市民の保健・福祉ニーズに迅速かつきめ細かに対応するサービス体制を構築するための「保健・福祉サービスの総合化の推進」、ハードとソフトの双方からノーマライゼーション（等しく生きる社会）の実現を図るための「ユニバーサルデザインの推進」、適切な施設サービスを提供するための「社会福祉施設の充実」、住み慣れた地域において、自立した生活を送る環境をつくるための「保健・福祉サービス基盤と支援機能の充実」に、重点的に取り組みます。	政策目標 (基本施策目標)	充実した保健・福祉サービスにより、住み慣れた地域において自立した生活を送っています。
--------------	---------------------------	----------------	------------	-------------	--	------------------	--

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

①施策名	市民の福祉活動への参画促進						H19：基準	H20	H21	H22	H23	H24：目標	達成率 (%)			
	市民の福祉活動への参画促進													施策指標(単位)		
②施策目標	市民が地域の福祉活動に積極的に参画しています。						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	-----			
③施策を 取巻く環境	国・県等の動向	近年のボランティア活動については、特定の福祉団体だけにとどまらず、民間企業や労働組合、NPO、生協などの様々な組織・団体も活動主体となるほか、個人での活動も広がりつつあり、新しい形態の活動が増えてくるなど、その活動内容も多岐にわたっていることから、福祉の活動への関心が高まっているといえる。国や県においては、福祉活動を通して地域の活性化につながるものとして積極的な視点で捉えている。					指標① (総合計画に基づく指標)	ボランティアセンターの登録団体数(団体)	-----	167	168	169	170	171	95.3%	
		外部意見 その他	福祉のまちづくり表彰(2号表彰)の選考委員会において、表彰は多くの市民が福祉活動等へ関心を高める良い機会となることから、募集について効果的な周知を図るよう要望がある。また、宇都宮市民福祉の祭典実行委員会より、市民の福祉活動等に対する関心をより高めるためにも、実施内容の工夫や積極的な普及啓発等が必要であるとの意見がある。					指標②	ボランティアセンターの相談・調整件数(件)	-----	-----	-----	-----	-----		9,380
						指標③	市民福祉の祭典参加者数(人)	-----	10,200	11,900	13,600	15,300	17,000	55.9%		
						指標④ (特記事項)										-----
⑤市民意識調査結果	市民の 施策満足度	21.3%	市民の 施策重要度	63.6%	達成度 (単年度目標)	● 達成している (90%以上)	概ね達成 (70%~90%未満)	達成していない (70%未満)	説明	ボランティアセンターに登録されている団体数は横ばいであるものの、ボランティア活動に関する斡旋依頼・相談件数が年間約9千件と一定数あることや市民福祉の祭典参加者数の増加から、施策目標を達成している。				⑦現状分析と課題の抽出 ③⑤⑥を踏まえた分析	成果が見られる点	ボランティア団体の登録団体数は横ばいではあるが、福祉活動への認知の向上や参画がなされ、目標はおおむね達成できている。
	必要性・緊急性 (住民・社会ニーズ)	● 増加している	横ばい	減少している	説明	ボランティア活動に関する斡旋依頼や相談件数が年間9千件と高いレベルを維持していることや市民福祉の祭典参加者数増加から、市民の福祉活動に対するニーズは高い。				改善の必要な点	ボランティアセンターへの相談・調整件数は一定数あるものの、団体・個人の登録数が伸び悩んでいることから、継続的に福祉活動等へ参加できるように、引き続きボランティアや地域福祉活動に関する情報提供や養成講座をより一層充実させる。					
	適切性 (適切な事務事業の選択、実施)	● 十分である	不十分な事業が一部ある	不十分な事業が複数ある	説明	各事業の実績が着実に伸びていることから、事業の持続的な実施が求められている。										
	有効性 (政策目標への効果)	● 十分である	やや不十分である	不十分である	説明	ボランティアの発掘や育成、活動支援などを着実に実施し、様々な活動団体と連携協力しながら市民の福祉活動の参画を促進している。										
⑥施策の評価																

3 今後の取組方針

⑧取組の 考え方	総論	今後さらに、市民の活動意欲や自主性を尊重しながら、ボランティア活動等の情報提供や養成講座などを充実させていくとともに、福祉活動等が継続的に安定して行われ、誰もが地域の福祉活動に積極的に参加できるようにしていく必要がある。	⑨政策評価 会議意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況は高い数値となっており、今後ともボランティア活動に参加しやすい環境づくりや福祉意識の醸成を促進する必要がある。 ・ボランティア活動等の継続や活動意欲の向上を図るため、やさしさをはぐむ福祉のまちづくり事業に重点的に取組む。 ・宇都宮市民福祉の祭典においては、参加者を増やすための更なる工夫が必要である。
	重点事業	ボランティア活動等の継続や活動意欲の波及を推進するため、やさしさをはぐむ福祉のまちづくり事業について重点的に取組む。		
	見直し事業	宇都宮市民福祉の祭典においては、参加者を増やすための更なる工夫が必要である。		

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	H20	H21	H20	H21	重点度 (A~C)	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
					目標値	目標値	事業費	事業費			
					実績値	実績値	(千円)	(千円)			
再掲	やさしさをはぐむ福祉のまちづくり事業	すべての市民	H13	表彰の募集に対する応募件数(件)	30	30	—	—	—	継続	地域の福祉活動に対するニーズは高く、表彰への応募件数も増加傾向にあり市民周知と市民意識の高まりがみられるため、今後も継続して実施し、市民が積極的に福祉活動へ参加できるよう一層効果的な周知方法を検討していく。
					16	17					
再掲	市民福祉の祭典	すべての市民	H19	参加者数(人)	12,000	11,900	—	—	—	継続	総合的な本市の福祉イベントとして、市民意識の高揚と市民福祉の増進をより一層図るため、効果的な実施方法の検討と合わせ、各団体等と連携協力しながら継続実施する。
					8,800	9,500					
再掲	こころのユニバーサルデザイン推進事業	すべての市民	H20	障がい者等シンボルマーク認知度(%)	—	37.4	—	—	—	継続	民間団体、事業者、地域組織等を活用しながら継続的に実施しているため認知度も高まりつつある。市民の福祉意識の醸成を促進するため、より効果的な手段の検討を行い、積極的な啓発を図る。
					34.8	37.6					
施策事業費合計					0	0					